

その後私はまた一人で死海沿岸のエリコ、クムラン、マサダそして最南のアカバ湾の港町エイラットを訪ねる旅に出発した。死海のすぐ北に位置するエリコは、古代からオアシスの町で海抜下260mと世界で最も低い地にあり、現在はパレスチナ自治区の重要な町である。モーセの後継者であるヨシュアの指揮下、エジプトを脱出したイスラエルの民が最初に攻め込んだ町がここであり(ヨシュア記6章)、また主イエスがバルテイマイという盲人を開眼させ(マルコ10:46~52)、徴税人ザアカイを救われた(ルカ19章)のもこの町でのことであった。

本発刊に随
写の「・軍
ドい。見た
一古。し。一
ラも。出。口
グ上。つ。み
ン以。あ。生
ニ年。で。を
（レ。の。れ
本。も。そ。同
写。1。て。く
語。に。当。な
イ。更。を。で
ラ。、。光。り
ブ。べ。に。か
へ。比。究。に
の。に。研。本
紀。）。点。写
世。る。原。、
0。れ。約。り
1。ば。旧。よ
元。呼。、。に
紀。と。で。掘
と。呼。、。に
掘。ム。掘
よ。分。博

0年、この要塞にエレーアザル・
ベン・ヤイサーレム陥落後にも、ここの要塞にエレーアザル・
60人を挑み、10人の歴史が、ま、この要塞にエレーアザル・
戦害し、10人の歴史が、ま、この要塞にエレーアザル・
選ん記録で、この要塞にエレーアザル・
に不明で、この要塞にエレーアザル・

ブラハムとアビメレクが契約を結んだ場所と言われ
(創世記 21・25 - 31)、井戸の大きさは直径
3.75 m、深さ 1.3 m で、現在、井戸の水は枯れて
無くなっていた。沙漠の遊牧民ベドウィンの市場(ス
ーク)が町はずれにあり、面白い交易風景を見ることが
できた。アブラハムが植え、永遠の神、主の御名を
呼んだと伝えられる(創世記 21・33) ぎょりゅう
の木(タマリスク)は多くの街路樹となって、旅人の心
をなごませてくれた。

「キリスト教との出会い」 (70)

－初めてのイスラエル・ギリシア旅行(XVI)－

牧野 信次

私は死海沿岸とネゲブ地方の旅を終えて、いったんベエルシェバからエルサレムへ帰った。しかしどうしでも訪ねたい場所が二つあった。それはヘブロンとベツレヘムであった。ヘブロンはエルサレムから南に32 kmに位置する、アラブ人が多く住む海拔930 mの古い町で、アブラハムがここに天幕を張って祭壇を築き(創世13:18)、ヘト人からマクペラの洞窟を銀400シケルで買い、そこに妻サラを葬った(創世23章)との伝承がある。そこにアブラハム、イサク、ヤコブの三人の族長と三人の妻たち、サラ、リベカ、レアの墓を保護する、とても大きな建物が、長さ60 m、幅35 m、高さ12 mの大きさで、ヘロデ王時代に建てられたという。今はイスラムのモスクに変わって、残念ながら日本人は立ち入ることができなかつた。六日戦争以前はヨルダン統治下にあったが、現在はイスラエルの管理下であり、紛争の多い町である。マクペラの洞窟から北西へ約2.5 km行った所に、かしの木の老木があり、ここでアブラハムに三人の天使が現れて、妻サラに子どもが授けられる(創世18章)と告げた。

それから治安が悪いヘブロンに長居せず聖地ベツレヘムを訪ねた。そこは海拔726 mの小高い丘の上で、ヘブライ語で“パンの家”を意味するアラブ人キリスト教徒の多い観光の町である。ダビデの故郷で彼が預言者サムエルから油を注がれて、後にイスラエルの王と

なつたと言われる(サム上16章)。このベツレヘムからメシア(救世主)が到来する(ミカ5:1)と伝えられて、イエス・キリストの誕生地として有名である。ローマ皇帝コンスタンティヌスの母が巡礼に訪れ、イエスが誕生したとされる場所に紀元326年あの聖誕教会が建てられ、6世紀のユスティニアヌス帝の時代に、今から千年前の十字軍時代に現在見られる教会の形になった。とても堅牢な建物で、要塞の役割も果たしたらしい。